

【評価の内訳】

協働事業の評価	評価数
当該協働事業を実施したことで、具体的に市民サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものである。	2
ほぼ適切な協働事業として評価できるものである。	4
協働事業として、うまく機能しなかった。	2

【事業に関する意見】

1	この事業に対する実施団体と関係部署の連携は取れていたと思うが、結果として実施回数が2回と言うのは残念である。 ・チラシを工夫するなど参加者を増やす努力はして頂いたが、開催日・場所・時間等々の問題なのか参加者が少ないのが課題 ・事業としては意義のあるものだと思うので継続はして頂きたい
2	ファシリテーター講演の参加者が学び、対話を通じた関係づくりに活用できることになると思う。また、子どもにとって安全で安心できる場であり、思いを語っても良いという場が作られていることは大切だと思うので、参加者を増やす方法が必要です。地域や学校、家庭などさまざまな場面でファシリテーター、この技術を活用して、対話の機会を広げることができることを願います。カフェ参加者が少ないので子ども達が集まってきたくなる方法を考えることも大事です。場を設けても活用されないことはもったいないので、ぜひ参加者を増やしてほしいです。
3	参加者が少ないのでコメントは控えたい。「こども対話カフェ」はあまり感心できない。子ども対話カフェの内容等関連者に理解できないのでは。課題が残る。一時的休止にあたいする。
4	唯一気になる点としては、参加者数についてです。必ずしも物量的な評価が正しいとは思ってはいませんが、協働事業として展開するうえでは参加者数は少なく感じ、同時に効果測定がしにくいためこちらの評価にしました。課題把握とそのアプローチについてしっかり捉えたうえでの取り組みであると思いますが、その認知や参加のハードルなど外枠に関しての課題が浮き彫りになったのだと思います。しかしながら、その状況に対し団体の皆さまにおいては焦燥感や不安に駆られたものだと思いますし、集客に試行錯誤されている様子も見受けられます。 意見としては、学童と連携して実施をし、対話カフェのすそ野を広げることに注力されるのはいかがでしょうか。子どもたちにとって自ら何かに参加するには“体験したことがある”と“体験していない”では大きな違いがあるように感じます。
5	不登校や引きこもりの方の居場所が作れ、小学生も本音を話すことが出来ていることを加味するとこの事業は必要だと感じられる。参加者が少ないことを見ると、チラシなどの宣伝を改善する必要があると感じた。
6	参加者が少なく残念です。いじめ、不登校、どうしたらなくなるのか？難しい課題です。
7	令和6年度の事業実施内容から、「こども対話カフェ」としては、うまく機能しなかったと評価させて頂きました。一方、好評だった哲学対話体験講座ですが、当事業の目標達成に必要なことかもしれませんが、「こども対話カフェ」の活性化の為に優先すべきかどうかは議論が必要かと思います。
8	協働した結果、参加者はおそらく意義深い体験になったと推察されるが、参加者数という一つの具体的な結果からはまだ工夫できる点があるのではないかと思います。なかなか参加者の募集に苦戦しているようですが引き続きのより市と協働して発展していくのを応援しております。